

地図で見る世界の子どもたちのようす



アフリカで今、何がまこっているのだろう？

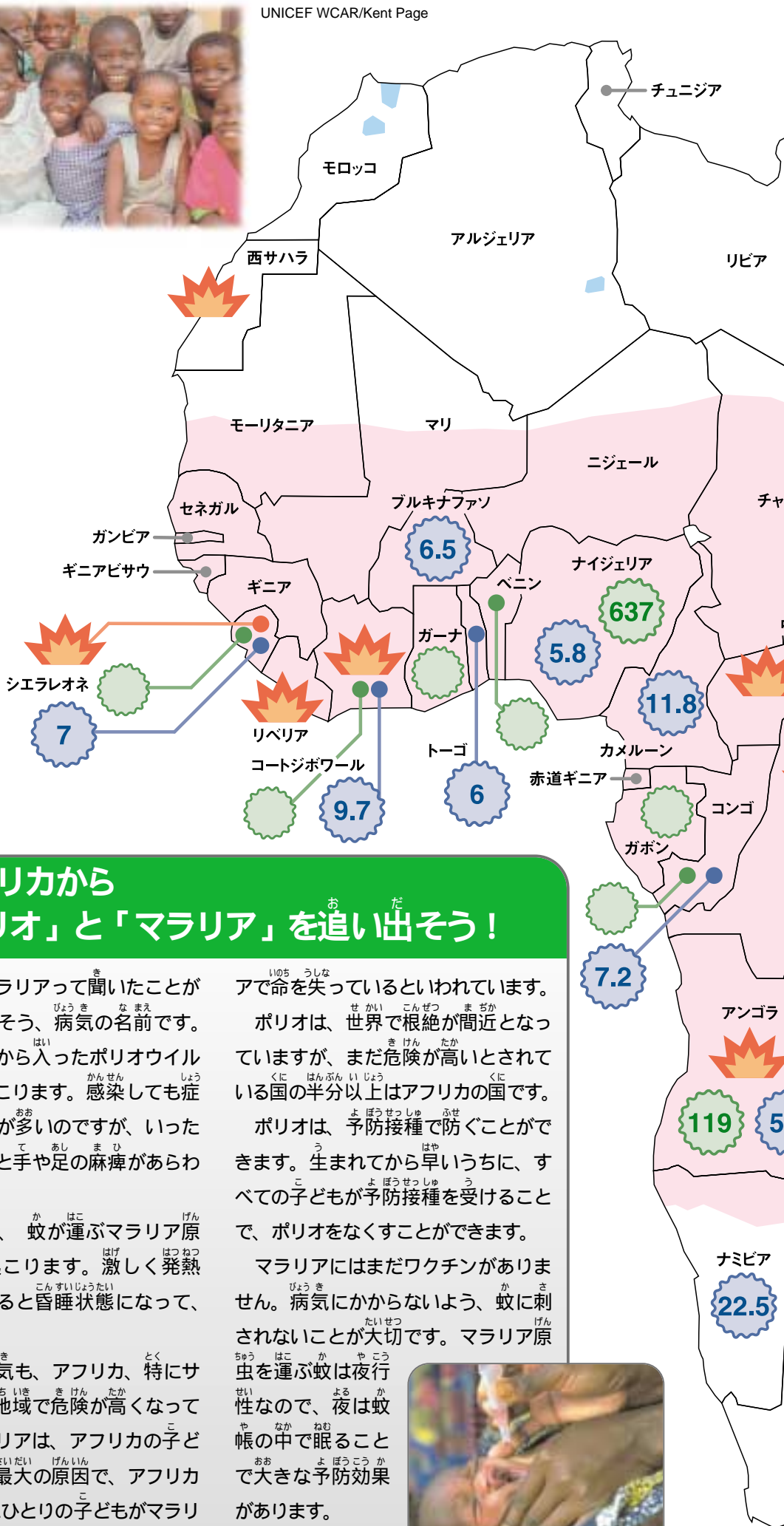
「アフリカ」と聞いて、みなさんは何をイメージしますか？
8億人近くが暮らし、53カ国もの国があるアフリカ大陸は、世界の22パーセントの面積を占めています。多様で豊かな土地がらですが、植民地支配や奴隷貿易など悲しい歴史も経験してきました。今のアフリカには、貧しい、戦争をやっているなどのマイナスのイメージもあるかもしれません。経済の大きさをあらずGDP（国内総生産）という指標を見ると、アフリカが世界に占める割合は1.7パーセントにしかありません。現在、特に開発が遅れている「後発開発途上国」と呼ばれている国は世界に49カ国ありますが、そのうち34カ国はアフリカの国です。

今年9月末に、東京で「第3回アフリカ開発会議」という大きな国際会議がひらかれます。アフリカ各国の首脳や、アフリカの支援にたずさわっているさまざまな国や機関、NGOなどの代表が集まって、これからどのようにアフリカの開発に取り組んでいってほしいかを話し合います。

たしかにアフリカをとりまく状況は深刻です。しかし、一方でこれらの問題に対する子どもや若者たちによる取り組みが進んでいるのもアフリカです。今、アフリカでは何が起きているのでしょうか。日本や国際社会にできることもたくさんあります。どんな取り組みがもめられるのか、考えてみましょう。



UNICEF WCAR/Kent Page



アフリカから「ポリオ」と「マラリア」を追い出そう！

ポリオやマラリアって聞いたことがありますか？ そう、病気の名前です。ポリオは、口から入ったポリオウイルスによって起こります。感染しても症状が出ない人が多いのですが、いったん病気になるると手や足の麻痺があらわれます。

マラリアは、蚊が運ぶマラリア原虫によって起こります。激しく発熱し、ひどくなると昏睡状態になって、命を失います。

どちらの病気も、アフリカ、特にサハラより南の地域で危険が高くなっています。マラリアは、アフリカの子どもが命を失う最大の原因で、アフリカでは、30秒にひとりの子どもがマラリア

アで命を失っているといわれています。ポリオは、世界で根絶が間近となっていますが、まだ危険が高いとされている国の半分以上はアフリカの国です。ポリオは、予防接種で防ぐことができます。生まれてから早いうちに、すべての子どもが予防接種を受けることで、ポリオをなくすことができます。

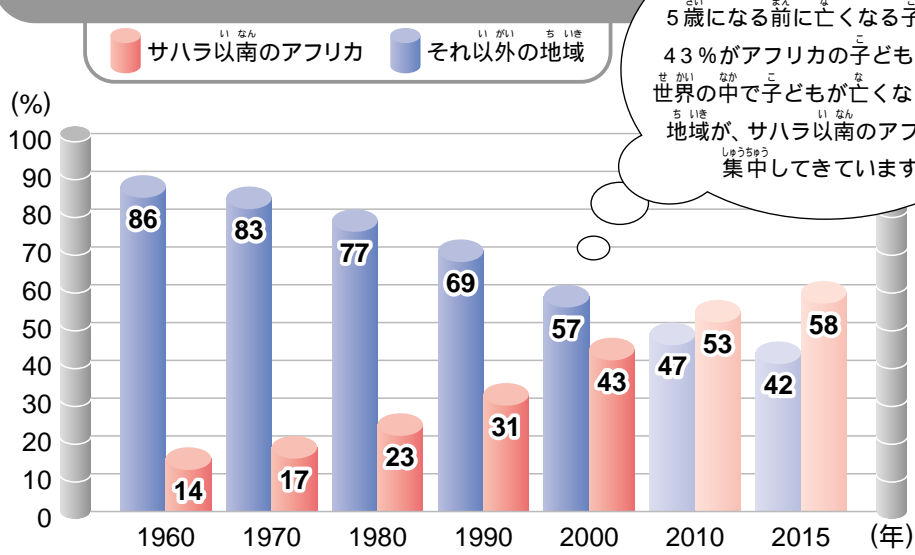
マラリアにはまだワクチンがありません。病気にかからないよう、蚊に刺されないことが大切です。マラリア原虫を運ぶ蚊は夜行性なので、夜は蚊帳の中で眠ることで大きな予防効果があります。



モザンビークでのポリオ予防接種キャンペーン UNICEF/Giacomo Pirozzi

5歳未満で亡くなる子どもたち

世界の中でサハラ以南のアフリカが占める割合の変化と予想



出典: "The Young Face of NEPAD" UNICEF

2000年には、世界で5歳になる前に亡くなる子どもの43%がアフリカの子どもでした。世界の中で子どもが亡くなっている地域が、サハラ以南のアフリカに集中してきています。

スカウトたちがポリオ予防に活躍！

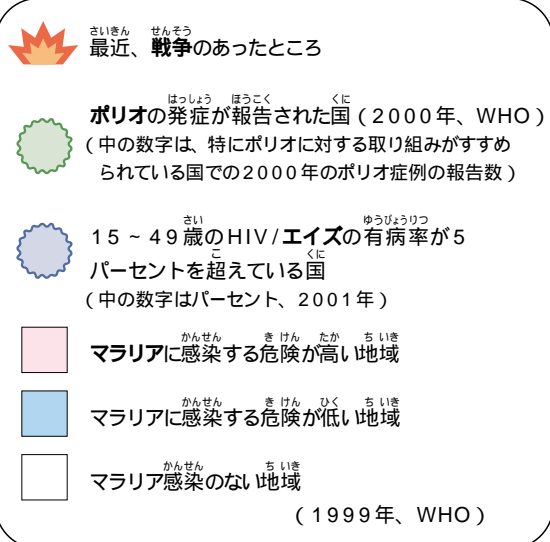


「こんにちは、イザベルといいます。今度、ポリオの予防接種があるんですけど、知っていますか？」町で赤ちゃんを連れてお母さんにイザベルは勇気を出して話しかけました。お母さんは、イザベルをいぶかしげに見ます。「ポリオという病気になると、足や手が使えなくなってしまいます。でも、予防接種で二滴の薬をこの子の口にたらしめてもらうだけで、一生ポリオにならなくてすむんです」とイザベルは説明をつづけます。

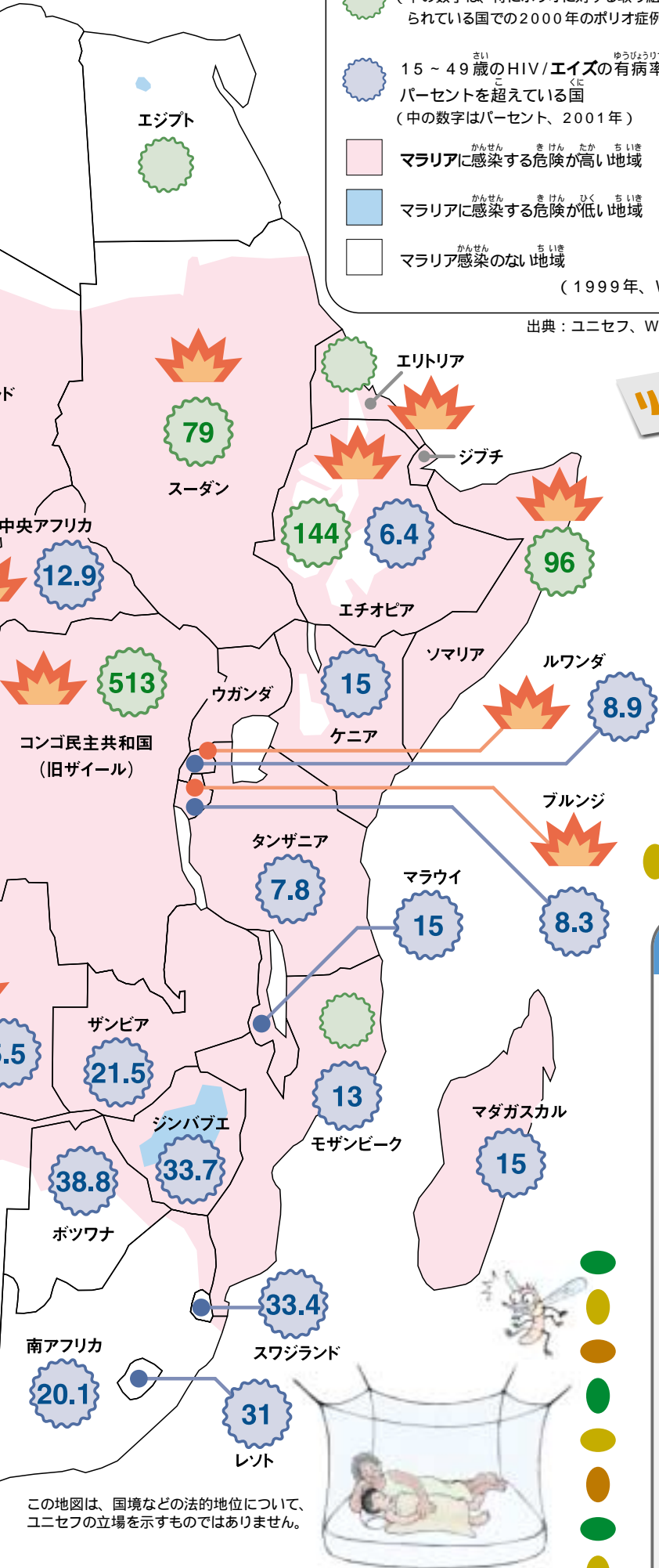
アンゴラでは、7,000人のガールスカウトやボーイスカウトのメンバーたちが、「全国ポリオ予防接種デー」にあわせて、人びとにポリオや予防接種

の宣伝をする活動をしました。「ただなんてあやしいわ」とうたがうお母さんに、「本当です。ユニセフがワクチンを提供してるんです」とイザベルは説得します。ようやくお母さんは、「わかったわ。明日は子どもに予防接種を受けさせるようにするわ」と答えてくれました。

このときの予防接種デーでは、300万人以上の子どもたちがポリオの予防接種を受けることができました。アフリカ各国では、大規模な予防接種キャンペーンが次々に成功していますが、アンゴラでは、ポリオ撲滅作戦にこうして子どもたちが一役かっています。



出典：ユニセフ、WHO、外務省



この地図は、国境などの法的地位について、ユニセフの立場を示すものではありません。

日本の技術がマラリア予防に大きな進歩をもたらしています

マラリアを防ぐためには蚊帳が効果的です。殺虫剤につけて処理した蚊帳を使うことをユニセフもすすめています。定期的に殺虫剤で処理しないと効果がなくなってしまいます。そこで、日本の企業が、あらかじめ殺虫剤が繊維に含まれていて、定期的に殺虫剤につけなくても効果がつかう画期的な蚊帳を開発しました。マラリア撲滅のための要請を受けて、この蚊帳をつくる技術がタンザニアのメーカーに移され、アフリカの人が自分達でこの蚊帳を現地生産できるようになりました。まだ、アフリカで必要とされている量の10パーセントしか生産できないため、これから、この蚊帳をできるだけ安く、たくさん供給できるようにすることが課題です。

平和と安定がなにより必要...

アフリカでは、いくつもの戦争がおこっています。原因は、民族や宗教の対立、貧困や経済の問題、政治の問題などさまざまです。混乱の中で、子どもたちは、予防接種も受けられず、学校にも通えず、肉親を失い、自分自身も兵士として戦争にまきこまれることさえあります。難民や避難民となって、大変な生活を送らなければならない人も何百万人もいます。

アフリカの問題を解決しようとするとき、まず、平和がなければなりません。平和がなければ、何をしてもすべてが水の泡になってしまうからです。どのようにしたら平和が定着するのか、戦争になる理由は何か、世界の人びとと一緒に考える必要があります。



今年、コンゴ民主共和国で起こった武力紛争で避難民キャンプに逃れてきた人びと EUpphoto via UN #UNE 2769

元子どもの兵士が子どもたちを手助け

リベリアでは、1989年から政府軍と政府に反対する勢力が戦争を続けてきました。どちらにも子どもの兵士がいました。ジェームズは、6歳のころ、反政府軍の兵士にさせられ、5年間、前線で戦いました。たくさん人も殺したといっています。いつも麻薬を与えられていて、痛みも感じなかったそうです。ジェームズがようやく兵士から解放されたのは11歳のときでした。「もう戦わなくてもいい、殺さなくてもすむと思うと、とてもほっとした」そう話すジェームズは、今は18歳のたくましい青年です。

ジェームズは、ユニセフも支援しているNGOの助けを借りて、学校に通い、いつかは医者になりたいという夢を追いかけています。そして、今では、ほかの子どもたちに、た

いこや歌、踊りを教えています。戦争をしているときには、「戦争のボス」というあだ名までつけられたジェームズは、「何より子どもたちが幸せそうに新しいことを学んでいる姿を見るのが好きです」と話す心優しい青年になり、リベリアの子どもたちの平和のためにがんばろうとしています。



南部スーダンで解放された子どもの兵士たち UNICEF/HQ01-0088/Stevie Mann

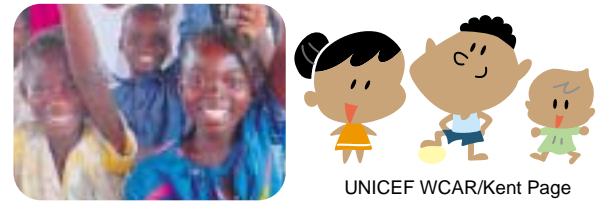
HIV/エイズの悲劇

今、HIV/エイズにかかっている人は世界におよそ4,200万人います。そして、その7割がアフリカに集中しています。病気の広まりがアフリカにもたらしている悲劇は数え切れません。HIV/エイズの有病率が5パーセントを超えているような国々には、お父さんやお母さんが次つぎに亡くなり、エイズ孤児が急激に増えています。働きざかりの人がいなくなるため、学校の先生や、保健員などが極端に足りなくなり、学校や保健センターが機能しなくなったり、コミュニティが崩壊してしまったところもあります。干ばつのために食料不足が起こっている国でも、その被害から立ち直るために働ける人がいなくなり、畑は荒れたままになっています。

HIV/エイズの検査がもっと簡単にできるようになること、エイズの発病をおさえる薬が安く手に入るようになること、お母さんから赤ちゃんへの感染を防ぐこと、孤児になった子どもたちを保護すること、そして何より、新しく感染する人をなくすために、子どもや若者がこの問題をよく知ること。すべての対策がすぐにおこなわれなければなりません



この家族は19歳の姉さんが世帯主。そのもとで5人の子どもたちが暮らしている。両親はエイズで亡くなった UNICEF/HQ02-0314/Giacomo Pirozzi



子どもや若者がHIV/エイズ予防に立ち上がっているよ!

シエラレオネ
首都フリータウンにあるユニセフが支援する青少年情報センターは、若者たちが気軽に立ち寄り、ゲームを楽しんだりできる場所です。ここで、若者たち自身がボランティアのカウンセラーとして、HIV/エイズを予防するための知識を伝えたり、話し合いをしています。センターには、人目につかずに入れるHIV/エイズの検査が受けられる場所があり、若者がいろいろな相談をできるようにもなっています。

ブルキナファソ
ブルキナファソには子ども国会があり、100人の子ども議員がいます。教育を進めようという計画をはじめ、記念式の場に出席した子ども議員たちは、政府の役人や国連やさまざまな機関の代表者を前に、「HIV/エイズの危険性についてきちんと情報提供してほしい、きちんとおとなが子どもに教えなければ、私たちは命と引きかえにそれを学ぶことになってしまう」と訴えました。

ガンビア
ガンビアでは、多くの学校で「チルドレン・アゲインスト・エイズ(エイズと闘う子どもたち)」という名前のクラブがつくられはじめています。中学生が中心ですが、エイズにかかった人の話を聞いたり、さまざまなイベントをひらいたりしています。また、小学生や小さな子どもたちにも、ぬりえを使ったりして、わかりやすくHIV/エイズを伝える活動をしています。